

2019年第4回高陽市チャレンジ国際バドミントン大会 参加報告書

大阪府レディースバドミントン連盟 春吉恵美

大会名 2019年第4回高陽市チャレンジ国際バドミントン大会
期 日 2019年9月7日(土)～8日(日)
会 場 韓国京畿道 高陽市体育館 (高陽市一山西区中央路1601)
参加者 9名 (大阪府レディースバドミントン連盟所属)

9月7～8日高陽市チャレンジ国際バドミントン大会が開催され、大阪府レディースバドミントン連盟より9名が参加した。日韓関係の雲行きが怪しくなる中での参加で、このまま決行しても安全か、また、参加してご迷惑をかけるかとの不安の中で、「心配ありません。あなた方のお気持ちはスポーツを通じてお伝えください」と大会組織委員会委員長のイ・ソンシク氏から連絡もあり、安心して出発することができた。

今大会は、台湾、マレーシア、香港、中国、ベトナム、シンガポール、マカオ、日本の海外選手150名を含む総勢1500名のバドミントン愛好者が参加。日本以外は男性の参加者も多く見られた。

種目は18才～70代の年齢別、ランク別(A.B.C.D)で行われ、予選リーグののち、決勝トーナメントが行われた。但し、海外選手はABランクのみのエントリーとなっていた。

今大会の一番の特徴は何といっても、デジタル機器の駆使ではないだろうか。16面全ての審判台にタブレットと、そこにつながる電子得点板。それを集約したものが本部近くに設置してある2台の大型モニターでリアルタイムに確認できる。そしてまた館内には10台のカメラが設置してあり、試合の様相を随時録画。のちに各試合ごとにYouTubeにアップされており、自身の試合を振り返ることができた。

試合は、混合ダブルスでは韓国の選手と組ませていただいた。韓国ではラケット同士ポンとあてあてコミュニケーションを取る。慣れない私たちはちょっとぎこちなかったが、これもまた良い経験だった。今回、日本語が堪能なスタッフが帯同。その方もバドミントンプレーヤーで、タイムテーブルの確認や、韓国人のプレースタイルや風の影響など親切にアドバイスをいただき、戸惑うことなくプレーできた。結果は女子ダブルス50・55才Bランクにて、原田佳恵・春吉恵美組が3位に入賞することができた。



← 入賞の原田・春吉組 大会参加者 ↓



各コート 試合進行モニター

試合終了後のパーティは、大会運営役員、海外選手およそ200名が参加し、ビュッフェスタイルで開催された。高陽市バドミントン協会会長イ・ホジン氏のご挨拶から始まったパーティですが、その中で私達日本からの参加をととても喜ばれていたとともに、今回盛大に大会が開催されたことに感動し、感極まって涙される場面もあった。今後もっと素晴らしい大会にしていきたいという強い思いを感じた。大会に参加することにより、お互いの交流の中で、良いところを吸収し合いこの経験を、国際親善の大会に生かしていきたいと思う。